



2017年度は組合員参加のリサイクル回収量が増加しました。



いわて生協が参加する野田木質バイオマス発電を、組合員が見学。

第6章

環境活動

地球温暖化防止と「原発に依存しない事業と暮らし」をめざし、取り組みをすすめています。

いわて生協 環境方針

環境理念

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所の重大事故は私たちの生活全般にわたって深刻な影響をもたらしています。

電気や化石燃料が十分に供給されることを前提にした従来の考え方は根本的に変えていくことが求められています。

いわて生協は、理事会で決定した「原発をすみやかに廃止し自然エネルギーを中心としたエネルギー政策

へ」の見解と方針に基づき、国に対して原発に依存しないエネルギー政策や再生可能エネルギーの急速な導入を求めます。また、自らも、原発に依存しない事業と暮らしをめざし、CO₂削減目標を持ち、再生可能エネルギーの活用・導入を積極的に推進し、従来から掲げてきた「持続可能な社会の実現」と人類共通の課題である地球温暖化防止のための活動に取り組みます。

環境方針

1. いわて生協は、東日本大震災によりくらしの価値観が大きく変わったことをふまえ、従来の活動の枠や発想にとらわれることなく、積極的に知恵を込めて以下の課題に取り組みます。
 - (1) いわて生協の事業における環境負荷を減らすため、マネジメントラインを通じて、全常勤者が、日常の仕事としてPDCAサイクルをまわして継続的な改善を積み重ねていきます。
 - (2) 資源を大切に活動を進め、組合員といっしょに資源節約とリサイクル活動に取り組みます。事業者責任として容器包装の100%回収をめざしリサイクルの目標を設定して取り組みます。レジ袋節約率を高め、早期にレジ袋有料化を実現できる環境づくりをすすめます。
 - (3) 常勤者・組合員それぞれが、節電と燃料の効率的な使用に取り組みます。
 - (4) 産直商品、アイコープ商品の開発と利用普及や地産地消の活動をいっそう推進し、県内農林水産業の復興・振興に寄与します。産直商品の輸

送エネルギー削減によるCO₂削減効果についてわかりやすいお知らせを行います。

- (5) 太陽光発電・風力発電・木質バイオマス発電をはじめ再生可能エネルギーの導入を推進します。また、施設・設備の省エネ型への更新、エネルギー効率のよい車両の導入を進めます。
 - (6) 岩手の森林を保全・育成し環境意識を高めるためコープの森づくりをすすめます。
2. 環境に関する法令を守り、事業によって環境を汚染しないよう、その予防に努めます。
 3. 上記の課題に、全常勤者が主体的に取り組めるように、環境教育を実施します。
 4. この環境方針と環境活動の取り組みの結果を定期的に公表し、社会的責任を果たすとともに、環境問題について社会全体の取り組みがさらに進むことへ寄与します。

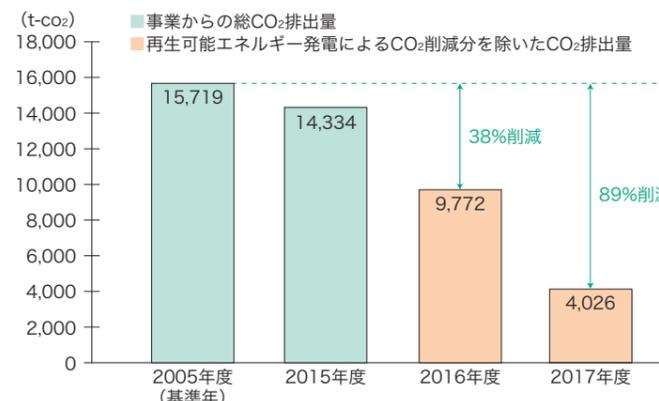
制定日 2011年5月23日
改定日 2017年3月27日
いわて生活協同組合
理事長 飯塚明彦

CO₂(二酸化炭素)排出量削減の取り組み

2017年度CO₂排出量 2005年度比89%削減

2017年度いわて生協のCO₂(二酸化炭素)排出量は、「2005年度比29%削減」の目標に対し「89%削減」となり、目標を大きく上回る削減となりました。これは、再生可能エネルギーの導入がさらに進んだこと、また事業所での節電や施設設備の省エネ化によるものです。

再生可能エネルギーは、事業所への太陽光発電設置、野田木質バイオマス発電への参加、コープ東北羽川風力発電「風みらい1号」の稼働、日本生協連の新電力会社「株地球クラブ」からの電気購入に加え、2017年度は花巻木質バイオマス発電に参加しました。



秋田羽川風力発電「風みらい1号」。

地産地消推進で 輸送エネルギー4万トン削減

岩手県内で生産する産直品やアイコープ商品は、生産・流通・消費がすべて岩手県内で完結するため、輸送エネルギーの削減につながります。

2017年度は輸送エネルギーの削減効果の店舗での表示をスタート。輸送エネルギー削減効果はCO₂4万390トンに相当し、前年より産直品・アイコープ商品の利用が増えたことで削減量も増加しました。

事業所での節電、施設設備の省エネ化の取り組み

2017年度は、セリオホール釜石やマリノコープドラ広告塔にLED照明を導入しました。また、コープ一関コルザの室外機の更新、ベルフ西町の空調設置に取り組みました。

共同購入事業では電気自動車7台が稼働し、走行距離は13万1千Km(前年比102%)になりました。

環境分野の第8次中期計画

1. 地球温暖化防止と原発に依存しない事業と暮らしをめざし、CO₂排出量削減と再生可能エネルギーによる創電に取り組みます。
 - (1) CO₂排出量は、2018年に「2005年度比29%削減」をめざします。
 - (2) 原発に依存しない事業をめざし、事業所の電力を全て再生可能エネルギーによる発電でまかなえるよう、取り組みます。
2. 「アイコープ商品」「産直品」を、輸送エネルギーの節約になる環境にやさしい商品として利用を広げます。
3. 廃棄物の削減とリサイクルによる再資源化をすすめて、循環型地域づくりに貢献します。
 - (1) 容器包装の軽量化、削減、リサイクルによる再資源化、レジ袋の削減などをさらにすすめます。
 - (2) リサイクルセンターを建設し、リサイクル品の拡大、再資源化をすすめます。
4. 組合員とともに、環境にやさしい持続可能なくらしと地域の環境保全に貢献します。
 - (1) 2つの「コープの森」への参加を広げます。
 - (2) 電力自由化の学習をすすめて、再生可能エネルギーを電源とする電気を選ぶ組合員を増やします。



いわて生協が参加する花巻木質バイオマス発電。



冷蔵ケースの温度点検など節電に取り組んでいます。

原子力発電に依存しない事業をめざす取り組み

事業所の電気使用量111%相当を再生可能エネルギーで確保

いわて生協は、東日本大震災による原子力発電の重大事故を受けて、「原発をすみやかに廃止し、自然エネルギーを中心としたエネルギー政策への転換」を求めています。また、「原発に依存しない事業とくらし」をめざし、節電や省エネ、再生可能エネルギーの活用を積極的にすすめてきました。

2017年度の電気使用量は、2,410万kWh（前年比101.1%）。これに対し、風力、野田・花巻木質バイオマス、太陽光の再生可能エネルギーで2,686万kWhを発電し、電気使用量の111%相当を再生可能エネルギーで確保することができました。

2018年度はこの取り組みを広げ、再生可能エネルギー発電比率の高い電気を組合員に供給する「電気小売事業」をスタートします（2018年6月14日）。

創電 風力発電と木質バイオマス発電が稼働

コープ東北羽川風力発電「風みらい1号」

みやぎ生協・コープあきたと共同で風力発電3基を秋田県に建設し、2016年10月から稼働しています。1基がいわて生協の風車「風みらい1号」で、発電出力は2.5MW（1,500世帯相当）です。

2017年度は好調に稼働し、発電量は計画を上回る597万kWhとなりました。

野田木質バイオマス発電

日本生協連、コープ東北サンネット事業連合などとともに参加。2016年8月から本格稼働しています。発電出力は14MW（2万6千世帯相当）です。

2017年度、発電量（いわて生協分）は1,188万kWhとなりました。

花巻木質バイオマス発電

2017年2月から稼働。いわて生協は同年5月より参加。発電出力は6.25MW（1万3千世帯相当）です。2017年度、発電量（いわて生協分）は816万kWhとなりました。

創電 太陽光発電を17事業所に設置 年間発電量は85万kWhに

2017年度は、17の事業所（758kW）での発電を継続しました。発電量は85.5万kWhとなりました。

太陽光発電設置事業所

稼働開始年度	事業所名	設置規模(kW)
2006年度	セリオホールみたけ	10
2010年度	釜石センター	20
2011年度	セリオホールみやこ	10
2012年度	ベルフ牧野林	49
	久慈センター	20
2013年度	けせんセンター	20
	ベルフ山岸	49
2014年度	県南センター	31
	セリオホール牧野林	16
	ベルフ八幡平	99
	コープ関コルザ	80
2015年度	盛岡南センター	74
	宮古センター	25
	コープ花巻あうる	98
	セリオホール仙北	43
	花北センター	58
2016年度	セリオホールみたけ(増設)	15
	セリオホール岩泉	21
	県南センター(増設)	13
	けせんセンター(増設)	7
	合計	758

廃棄物の削減、リサイクルの取り組み

100%回収をめざして取り組みスタート リサイクル回収量は4,198トンに増加

2017年度のリサイクル活動は、卵パック、紙パック、トレイの3品について、100%回収をめざす取り組みをスタートしました。組合員へのよびかけを強化し、すべての回収品で回収量が増加。総回収量は4,197トン（前年比105%）となり、CO₂削減効果は3,590トンになりました。

トレイの回収量は増加しましたが、回収率は38%と、他の品目より低くなっています。引き続きリサイクル参加を広げる取り組みが必要です。

2017年度リサイクル3品回収量・回収率

品目	回収量(前年比)	回収率
卵パック	2万3,375kg (112%)	86%
紙パック	7万2,792kg (105%)	78%
トレイ	3万7,718kg (106%)	38%



レジ袋節約率54.6%に向上

6月5日「世界環境デー」を「お買い物袋持参の日」として取り組みました。店内放送やレジでの声かけ、レンタル袋のご案内などにより、過去最高の97.8%（前年90%）の組合員にレジ袋節約にご協力いただきました。また、レンタルバッグを全店でスタートするなど取り組みを強め、レジ袋節約率は54.6%（前年+6.7%）に向上しました。



2017年度 レジ袋節約効果

レジ袋節約枚数	644万枚
石油節約効果(推計)	11万7,658ℓ
CO ₂ 削減効果(推計)	30万8,149kg

生ごみリサイクル率61%

店舗の生ゴミリサイクルは301トン（前年比93%）、リサイクル率は61%でした。

※食品リサイクル率は、法律で55%以上が目標です。

生ゴミリサイクル状況

店舗	用途	重量(前年比)
盛岡・滝沢店舗	発酵ガス発電、液肥原料	61トン(104%)
コープアテルイ(奥州市)	堆肥原料	31トン(98%)
コープ関コルザ	動物の餌	10トン(104%)
全店(魚アラ、惣菜油)	飼料・肥料原料	45トン(96%)
コープ花巻あうる	肥料原料	14トン(83%)

古紙回収機 5店舗で684トン回収

新聞やチラシなどを回収する古紙回収機を、5店舗に設置しています。2017年度は684トン（前年比100%）を回収しました。

古紙回収機設置店舗

ベルフ仙北、コープ花巻あうる、コープアテルイ、コープ関コルザ、マリンコープドラ

家庭の使用済み揚げ油 2万5,928ℓを回収

使用済み揚げ油の回収量は、2万5,928ℓ（前年比104%）でした。回収した油は、飼料原料として再利用しています。

岩手県「エコショップいわて認定店 優良事例表彰」 コープ花巻あうるが総合表彰

岩手県「エコショップ」制度で、コープ花巻あうるが2017年度総合表彰に選ばれました。この間のリサイクルの取り組みなどが評価されました。





毎年組合員が参加して行っている森づくりの活動。



秋のコープのつどいで、エシカル消費と対象の商品を紹介しました。

持続可能な地域社会をめざして 組合員活動の取り組み

2か所の「コープの森づくり」に 254人が参加

岩手の豊かな森林を残していこうと、2010年から組合員参加で取り組んでいる「コープの森づくり」。1つ目の「コープの森 in くずまき」は、8回目の植樹を2017年6月に葛巻町で実施。組合員・常勤者84人が参加し、トチノキなどの苗木300本を植樹しました。8年間での植樹本数は、委託分も含め1万5,400本となりました。

2014年度からスタートした「コープの森 in まえさわ生母～国の天然記念物イロハモミジの森づくり」は、4年目の活動に取り組みました。7月の下草刈には57人が、11月の第4回植樹には組合員・常勤者65人が参加し、イロハモミジの苗木30本を植樹しました。

「コープの森づくり基金」 収入は254万円に

2012年「コープの森づくり基金」を設立し、組合員のリサイクルで回収した紙パックの益金と共同購入チラシ益金の一部、「苗木一本募金」、お取引先協賛企画による募金を積み立てています。

2017年度の収入は254万円（前年+16万714円、106%）となりました。みちのくコカコーラ様の協賛で、「対象飲料1本利用につき1円がコープの森募金」になる企画を継続しました。また、組合員による苗木一本募金は、20万7千円（前年+12万8,765円、264%）となりました。2ヶ所の森づくり費用を賄うため、引き続き募金を増やすことが課題です。

「コープの森づくり」を支えてくださる企業を募集しています。お問い合わせは、環境事業推進室（TEL 019-687-1321（代））まで。

2017年度コープの森づくり基金収支報告

収入	苗木一本募金	20万7,476円
	牛乳パック、共同購入チラシ売却代金	211万4,960円
	協賛金など	22万6,832円
	計	254万9,268円
支出	くずまきの森費用	80万1,711円
	まえさわ生母の森費用	83万6,741円
	広報費用	60万6,591円
	計	224万5,043円
収支	コープの森づくり基金へ	30万4,225円

※コープの森づくり基金の2017年度末残高は411万4,157円となりました。

「エシカル消費」を広げよう 呼びかけ

買い物を通じた社会支援「エシカル消費」を広げよう取り組みました。組合員活動や店舗、共同購入で、フェアトレード商品や環境配慮商品、また商品の利用が社会貢献活動への募金につながる商品を積極的に紹介。「エシカル消費」への理解と利用を広げました。

2017年度 日本生協連「エシカル消費」 対象商品寄付金額

対象商品	寄付先と活用	寄付金額
コープのトイレトーパー	1袋の利用で1円がユニセフに寄付され、アンゴラでの学校づくりに使われます。6年間で60校を支援。	1,253万円
コープの洗剤	1品利用で1円が、「ボルネオ緑の回廊」プロジェクトに寄付され、ボルネオ島の野生動物を守るための活動に使われます。	414万円
コープのカップめん、カップスープ	1品利用で1円が、国連WFP(世界食糧計画)に寄付され、カンボジアの学校給食を支援。3年間で36万食を支援。	515万円
コープの化粧品	1品利用で1円が、日本乳がんピンクリボン運動に寄付され、乳がんの啓発や患者・家族の支援に使われます。	126万円
コープの応援食クッキー	1袋利用で1円が、「障がい者ノルディックスキー日本」に寄付され、ジュニアチームの活動などの支援に使われます。	39万円

環境に配慮した商品利用普及の取り組み

産直品やアイコープ商品の利用普及は地産地消を推進し、県内の農林漁業の復興・振興に寄与します。また、海外や県外産に比べて輸送にかかるエネルギーが少ないことから、CO₂削減にもつながります。

農産チーム

「顔とくらしの見える産直品」 供給高は6億7,369万円(前年比95%)

店舗でのパネルやのぼりなどの産直ツールを見直し、アピールを強化しました。産地交流の取り組みがすすみ、25企画に463人の組合員が参加。生産者との交流が深まりました。一方で天候不順による作物被害などが発生し、供給は前年を下回りました。

水産チーム

三陸産アイコープ商品・産直品 供給高は1億9,026万円(前年比102%)

産直真崎わかめの利用拡大を中心に取り組みました。組合員・常勤者が産地学習や生産者との交流などを通して、産直真崎わかめの特長を学び、利用を広げました。またギフトでの利用も広げ、年間利用重量は27.5トンと、過去最高の実績になりました。

畜産チーム

産直豚・産直若鶏 供給高8億9,514万円(前年比100%)

産直の豚肉、鶏肉を原料にした簡便商品の利用がさらに広がりました。産直アイコープ豚の産地交流・学習会には前年を上回る240人が参加し、「秋のコープのつどい」などでよさと利用を広げました。

惣菜チーム

岩手県産食材を使った惣菜商品 供給高は3億5,132万円(前年比100%)

県産原料を使った商品の開発や取り扱いに積極的に取り組みました。また、全店を対象に岩手県産食材を使った惣菜商品の供給コンテストを行い、常勤者の知恵をこめて取り組みました。

日記・グロサリーチーム

産直品・アイコープ商品 供給高は10億1,183万円(前年比99%)

産直生協牛乳は、好評の「あいちゃん」パッケージを低脂肪牛乳にも広げ、利用おすすめに取り組みました。産直さくら卵はメニュー提案をしながら、関連する商品と一っしょにおすすめしました。産直米は交流会を2産地で開催し、77人の組合員が参加しました。

葬祭事業セリオ

エコ棺のご利用469件に

葬祭事業セリオでは、葬儀の棺に環境負荷の少ない「エコ棺」をおすすめしています。「エコ棺」は管理された森林から採取した木材パルプを使用した、紙製の棺。木材の使用は従来の棺の3分の2、火葬時の燃焼による排ガス汚染は3分の1に低減されます。また、売り上げの一部をインドネシア・カリマンタン島の熱帯雨林「グリーンアークの森」の植樹活動に寄付しています。2017年度は施行した葬儀の37%にあたる469件（37%）で使用されました。

環境マネジメントシステム (EMS)

いわて生協は2000年に県内流通分野で初めて環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格ISO14001の第3者認証を取得し環境活動に取り組んできました。2009年に3回目の更新審査で認証を得ましたが、2010年下期からは独自のEMSに移行しました。EMSの仕組みを生かしながら、省エネ設備や創電などより戦略的なテーマに取り組んでいくことがねらいです。

内部環境監査

2016年度から内部監査と統合して実施。2017年9月4日から23日の期間に66事業所で実施し、5件(前年比+3件)の是正がありました。

環境情報

環境に関するお申し出は、ありませんでした。

環境負荷とリサイクルフロー

エネルギー・資材の使用

■エネルギーの使用

電気……………2,544万kWh
LPG……………257,567m³
灯油……………145,875ℓ
ガソリン……………288,105ℓ
軽油……………588,475ℓ
車両LPG……………26,656ℓ
ドライアイス……………500,240kg
水……………128,688m³
(委託車両を含む)

■資材の使用

紙
コピー紙(A4版換算)…1,423万枚
コピー紙以外の紙…3,472トン
(共同購入・広報物など)

容器・包装材
レジ袋……………45,478kg
ポリ袋……………7,595kg
トレイ(透明トレイ含む)…166,514kg
ラップ……………20,816kg
共同購入シッパー内袋…8,325kg

車両の使用台数(479台)
ディーゼル車……………241台
ガソリン車……………231台
電気自動車……………7台
(2018年3月現在：委託車両は含みません)

環境への排出

■大気への排出

CO₂ 排出量……………14,949トン

■廃棄物

一般廃棄物……………867,642kg
廃家電の排出(家電リサイクル法) ……32台

■事業活動の中で分別・再資源化しているもの

項目	2017年度	前年比
紙	91,475kg	104%
びん・缶	128,475kg	114%
発泡スチロール	53,225kg	74%
発泡スチロール(減容インゴット化)	31,130kg	81%
ダンボール	1,557,968kg	106%
廃食油	31,545kg	97%
魚アラ	148,724kg	92%
肉脂	48,497kg	119%
生ごみ	116,222kg	99%
共同購入シッパー内袋	8,325kg	91%
商品納品時フィルム	798kg	63%
合計	2,183,745kg (2,183トン)	102%

組合員のリサイクル活動(店舗・共同購入)

上段：回収量(前年比) 下段：枚数換算値

トレイ(発泡)	37.7トン (106%) 754万枚	▶ トレイに再生
トレイ(透明)	20.4トン (110%)	▶ プラスチック製品に再生
ペットボトル	134.4トン (104%) 223万本	▶ 卵パック・プラスチック製品に再生
卵パック	22.4トン (111%) 131万枚	▶ 卵パック原料に再生
紙パック	72.8トン (105%) 218万枚	▶ アイコープわたしたちのリサイクルトレイトロールを含む紙製品に再生
共同購入チラシ	3,090トン (102%)	▶ アイコープわたしたちのリサイクルトレイトロールを含む紙製品に再生
古紙	685トン (100%)	▶ 紙製品に再生
アルミ缶スチール缶	70.8トン (113%)	▶ アルミ・鉄製品に再生
廃食油	52トン (104%)	▶ 飼料原料として再利用
ダンボール	12.5トン	▶ ダンボールに再生

※業者に払い渡して再資源化した数量です。

いわて生協のリサイクルの流れ



環境活動のあゆみ

1990年 いわて生協誕生	・牛乳パックの回収リサイクルを開始。 ・買い物袋節約スタンプ制開始。	2008年	・発泡スチロールの減容・リサイクル施設完成。 ・共同購入トラックで燃費改善の取り組み開始。 ・買い物袋節約率が51%となり、50%の目標達成。
1991年	・使用済みOCR用紙のリサイクルを開始。 ・食品トレイの回収開始。	2009年	・本部構内にBDF精製施設を設置。 ・透明トレイ・ふたの回収リサイクルを開始。 ・盛岡エリア店舗の生ごみ(食品残さ)を小岩井農場内でガス発電・液肥へのリサイクルを開始。
1992年	・アルミ缶の回収を青山店(現ベルフ青山)で開始。	2010年	・「コープの森づくり」が葛巻町でスタート。 ・BDF使用が本格化し共同購入トラック24台で走行。 ・県「エコショップ」制度で「特別表彰」(模範的企業活動に対して)を受賞。 ・ISO14001を終了。独自EMS運用へ。
1993年	・朝配達牛乳で、紙パックをリターナブルビン容器(720ml)へ切り替え。 ・レシート用紙を再生紙に。	2011年	・家庭の使用済み揚げ油回収スタート。 ・「低炭素杯2012」で、特別賞受賞。 ・レジ袋大幅削減に向けた提言書を、岩手県などへ提出。
1994年	・包装ラップを非塩ビラップに切り替え。 ・店舗の飲料自動販売機の台数を削減(42台から20台へ)。 ・ギフトの簡易包装紙を開発し、使用開始。	2012年	・「コープの森づくり基金」設立。 ・「古紙回収システム」ベルフ仙北でスタート。 ・県「エコショップ」制度で、コープ高松が総合表彰、いわて生協全店も特別表彰を受賞。 ・太陽光発電3事業所に設置(89kW)。
1995年	・ペットボトルの回収リサイクルを開始。 ・共同購入トラックにLPG(低NOx)を導入開始。	2013年	・秋田羽川風力発電共同事業に基本合意。 ・「食品産業もったいない大賞」で審査委員長賞受賞。 ・県「エコショップ」制度でベルフまつぞのが総合表彰。 ・電気自動車4台を盛岡南センターに導入。 ・「コープの森づくり」奥州市でスタート。 ・太陽光発電3事業所に設置(96kW)。
1996年	・共同購入盛岡3支部で商品案内チラシ回収リサイクルを開始。 ・注文のないOCR注文用紙の回収リサイクルを開始。	2014年	・「古紙回収システム」をコープアテルイ・コープ一関コルザ・マリンコープドラに導入。 ・「できることからECOアクション賞」受賞。 ・県「エコショップ」制度で店舗事業が総合表彰、ベルフ牧野林が部門別表彰。 ・野田村の木質バイオマス発電事業へ出資・参加。 ・太陽光発電4事業所に設置(278kW)。
1997年	・共同購入全支部で商品案内チラシ回収リサイクルを実施。 ・盛岡市「ごみ減量・リサイクル協力店」に認定。	2015年	・電気自動車3台を花北センターに導入。計7台に。 ・県「エコショップ」制度で、いわて生協が総合表彰。 ・太陽光発電4事業所に設置(214kW)。
1998年	・回収したペットボトル・卵パックを卵パック原料として再利用。 ・回収した商品案内チラシを原料に、アイコープトレイトペーパーを商品開発。	2016年	・日本生協連の新電力会社「(株)地球クラブ」からの電気購入スタート。 ・野田木質バイオマス発電、コープ東北羽川風力発電が稼働。 ・太陽光発電3事業所に設置(41kW)。
1999年	・アイコープ低温殺菌牛乳(200ml)をリターナブルビン容器に切り替え。 ・ペットボトル・卵パック圧縮減容の作業開始。	2017年	・花巻バイオマス発電事業へ出資・参加。 ・県「エコショップ」制度で、コープ花巻あうるが総合表彰。 ・紙パック、トレイ、卵パックの全量回収をめざす取り組みをスタート。
2000年	・県内流通業で初めてISO14001の外部認証取得。 ・LPG車両が50台を超え半数以上の導入計画達成。 ・マイバッグ、マイバスケットの本格的普及活動を開始。		
2001年	・印刷物に大豆インキを採用。 ・遺伝子組換え原料・飼料の排除の取り組み本格化。		
2002年	・買い物袋節約スタンプからカードポイント制に変更。 ・共同購入の内袋を回収し、内部使用のゴミ袋にリサイクル開始。		
2003年	・買い物袋節約率が30%を超える。 ・コープアテルイで生ごみ堆肥化リサイクルを開始。		
2004年	・印刷物・帳票類の再生紙への切り替えが終了。		
2005年	・岩手県「エコショップ」制度第1号認定を受ける(全店)。 ・「森林(もり)を守る募金」開始。以後、この募金を活用し4年間で県内環境団体へ150万円贈呈。		
2006年	・セリオホールみたけに初の太陽光発電を導入。 ・共同購入トラックでBDF使用開始(6台)。		
2007年	・買い物袋節約率45%に。50%をめざす新目標を決定。 ・葬祭事業で環境負荷が少ない棺「エコ棺」を導入。		